

総括

●今年度の実績

○小牧山

～(仮称)史跡センターオープンを観光誘客の好機へ～

(仮称)史跡センターという新たな観光地点が創出される事にあわせ、小牧山観光誘客推進プロジェクトを発足し、「小牧山の魅力発信」へ進み始めました。

○名古屋コーチン

～名古屋コーチンの日認定を施策推進の追い風に～

これまでの「小牧発祥！名古屋コーチン」の普及啓蒙事業から、名古屋コーチンの観光資源化に向け踏み出し、発祥の地として「食べられる・買える環境づくり」に、小牧商工会議所・小牧市観光協会・市の3者が目指す姿を共有し、共に動き出しました。

○航空宇宙産業

～新たな航空関連施設を小牧市の観光へ活用～

「小牧市への誘客」に繋げるため、新たな航空関連施設のオープンに関する情報収集に努めました。

○総合

～今あるニーズを“観光活動”へ結びつける～

宿泊事業者調査等により事業者との関係づくりを行ったほか、今小牧市にあるニーズを観光活動へ結びつける、展開の方向性を確認しました。

○その他

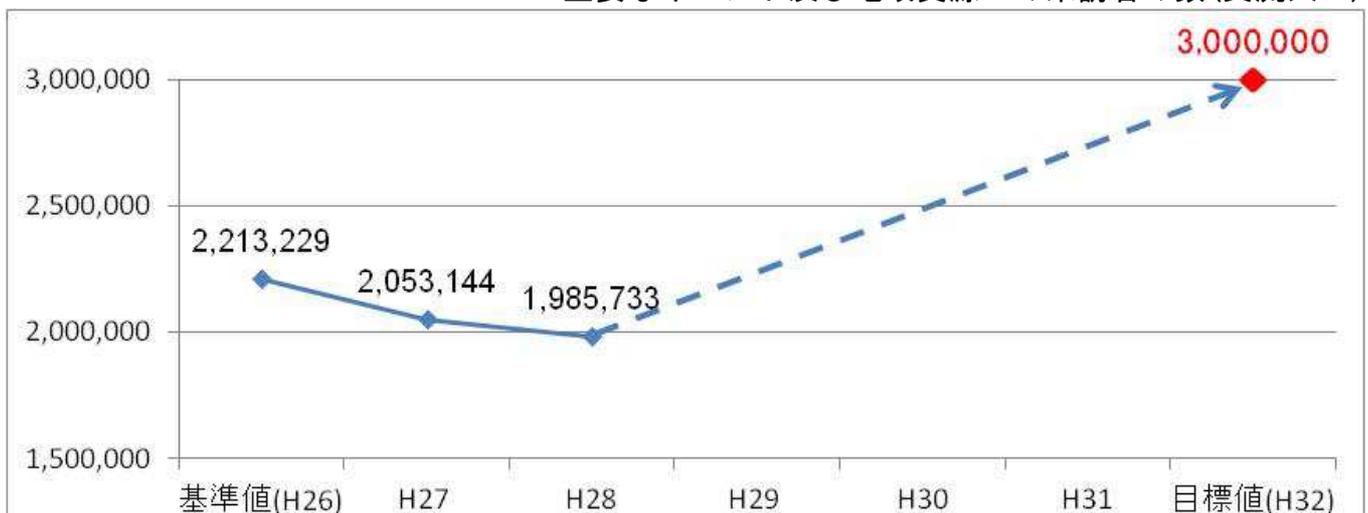
着実に施策を展開すると共に、PDCA サイクルを回し、施策の評価と改善を行うため、キーワード毎の評価指標と数値目標を設定しました。

●今年度の評価と課題

主要なイベント及び地域資源への来訪者の数(交流人口)は(P47 参照)、平成 25 年に「小牧山城築城 450 年記念」の各種記念事業により、2,522,150 人と大幅に伸びたものの、その後は減少傾向にあり、平成 28 年度は 1,985,733 人と過去 5 年中で最小値となりました。

イベントと観光地点の数を比較すると(P47 参照)、イベントの数値はほぼ横ばいであり、観光地点の来場者数が総数を左右している状況であることが分かります。

主要なイベント及び地域資源への来訪者の数(交流人口)



**総括**

また内訳を見ると(P47 参照)、小牧市歴史館の休館による数値の減少と、田縣神社における数値の減少が、特に全体の結果へ影響していることが分かります。

イベントに関しては、開催日数、曜日、天気、記念事業の有無等に数値が左右されるものです。

小牧市の魅力を定着させ、通年を通して安定した交流人口の増加を図るためには、既存の“観光地点”へ更なる誘客を図る必要があります。

**●来年度以降の方向性**

既存の“観光地点”へ更なる誘客を図るには、その観光地点の魅力を磨き上げ、伝えていくことが必要です。

そのための事業として、計画推進の2年目にあたる平成29年度は、小牧山のガイドの充実に重点的に取り組みます。特に、ガイドの育成や案内看板の設置などは、(仮称)史跡センターのオープンに合わせた取り組みが必要だと捉えています。

名古屋コーチンに関しては、新たにメニュー開発に関する補助金制度が、小牧商工会議所を事務局として開始される予定です。事業者向け説明会も継続予定であり、事業者の理解を深め、共に取り組みを進めたいと考えています。

また平成29年度は、あいち航空ミュージアムが11月にはオープンする予定であるため、連携した誘客活動に向けて、機を逃さない早急な取り組みが必要です。

今年度の実績を引き継ぎ来年度以降も、市民をはじめ、小牧市観光協会や観光関連団体と行政がさらに密な連携を組み、本市での観光の気運を高めつつ、各施策を着実に展開していきます。